日 本 独 文 学 会

秋 季 研 究 発 表 会

2017 年 9 月 30 日（土）・10 月 1 日（日）
第 1 日　午前 9 時 50 分より
第 2 日　午前 10 時 00 分より

会場　広島大学総合科学部（東広島キャンパス）K棟

〒739-8521　東広島市鏡山北 1-7-1
Tel. 082-424-6424（外国語教育研究センター連絡室）
E-Mail: katsuiwa@hiroshima-u.ac.jp

参加費：1,500 円
（学生会員，常勤職のない会員は 1,000 円）

日 本 独 文 学 会
〒170-0005　東京都豊島区南大塚 3-34-6　南大塚エースビル 603
Tel/Fax:　03-5950-1147
E-Mail（メールフォーム）: http://www.jgg.jp/mailform/buero

第 1 日　9 月 30 日（土）

開会の挨拶（9:50～9:55）

A 会場（L201 講義室）

中国・四国支部長　　髙池久隆
会　長　　清野智昭

口頭発表：文学 I (10:00~12:35)

A 会場（L201 講義室）

司会：久保田　聡・由比　俊行

1. 「故郷」を結ぶアウトバーンの旅―K. H. ヴァッガール『帝国アウトバーンの聖霊降臨節の牧歌』と戦後の改作をめぐって　杉山　有紀子
2. 「グロテスクな笑い」の再考察　―カール・ファレンティン『芝居見物』を例に―　摂津　隆信
3. ナチ期エルンスト・ユンガーの「反人文主義」的思考―『放射』における「人間性をめぐる距離の美学」について　稲葉　瑛志
4. 落下と接近―エルンスト・ユンガー『冒険心』における立体的認識と落下の関係について　内田　賢太郎

口頭発表:ドイツ語教育/文化・社会 (10:00~12:35)

C 会場（K110 講義室）

司会：髙池　久隆・原　千史

1. 文法規則の明示的説明の効果―冠詞の変化および定動詞の位置に関する実証研究―　太田　達也
   Elvira Bachmaier
2. Animationen in der Grammatikvermittlung und ihre Möglichkeiten im Unterricht
   Luisa Zeilhofer
3. ジークムント・フロイト／マルタ・ベルナイス『婚約書簡』について―精神分析の生成―　金関　猛
4. 青年音楽運動における境界線の再編制―党派・宗派・家庭から民族へ―
   牧野　広樹

ポスター発表Ⅰ（13:00～14:30）

（ポスターは期間中を通じて掲出されています）

F 会場（K105 講義室）

Sprachlernspiele – ein Unterrichtsmittel mit hohem pädagogischem Potenzial – Teil 5

Marco Schulze

ポスター発表Ⅱ（13:00～14:30）

（ポスターは期間中を通じて掲出されています）

G 会場（K106 講義室）

Der Mythos lebt! ―現代におけるニーベルンゲン伝承の諸相

野内　清香

Forschungsprojekt zur Deutschförderung unter Berücksichtigung von Mehrsprachigkeit an der DSTY

Nina Kanematsu

Ruben Kuklinski

ブース発表 I（14:30～16:00）

（ブース発表は途中での出入り自由です）

D 会場（K101 講義室）

独検および CEFR に対応したドイツ語単語帳および単語練習アプリケーション作成について

川村　和宏

ブース発表Ⅱ（14:30～16:00）

（ブース発表は途中での出入り自由です）

E 会場（K102 講義室）

語学教育の方法をいかしたドイツ文学講義の試み―教養科目でどのように文学を取り上げることができるか―

熊谷　哲哉

口頭発表：文学Ⅱ（14:30～17:05）

A 会場（L201 講義室）

司会：舘野　日出男・松尾　博史

1. Pazifikismus. Vorschläge für eine literaturgeschichtliche Revision

   Thomas Schwarz

2. アイヒェンドルフ作品における誘惑するシュピールマンとその詩学的意味

   水守　亜季

3. クリスチャン・フェーリクス･ヴァイセの寓話―諧謔と教訓と子ども観をめぐって―　小林　英起子
4. 後期ヘルダーリンとバタイユのエロティシズム
―神への企てとしての侵犯の思考　益　敏郎

口頭発表：語学（14:30～17:05）

B 会場（K210 講義室）

司会：最上　英明・依岡　隆児

1. ドイツ語における Operator-Skopus 構造に関する一考察
―19 世紀の書きことばを対象として　細川　裕史
2. ドイツ語の分裂文の照応性と対照性―対照言語学的観点から　山崎　祐人
3. 二つの Origo と視点　瀧田　恵巳
4. ドイツ語の主要部パラメターと語強勢　稲葉　治朗　時崎　久夫

口頭発表:文学Ⅲ（14:30～16:25）

C 会場（K110 講義室）

司会：大杉　洋・Anette Schilling

1. 「待つこと」における時間の美的構造
―《トリスタンとイゾルデ》を例として　北川　千香子
2. フランツ・カフカ『リヒャルトとザームエル』における映画と
創作の関係性　山口　知廣
3. Das Land verlassen
Inseln als Flucht- und Zielpunkt: Gesellschaftskonstruktionen auf einem Isolations- und Schutzort am Beispiel von Lutz Seilers indirektem Wende-Roman „Kruso“ (2014)　Andreas Wistoff

懇　親　会（18:30～20:30）

会場：西条 HAKUWA ホテル　2 階 ダイヤモンドの間
会費：6,000 円（学生・常勤職のない会員は 4,000 円）

第 2 日　10 月 1 日（日）

シンポジウムⅠ（10:00～13:00）

A 会場（L201 教室）

晩年のスタイル
Spätstil

司会：香田　芳樹

1. 「よちよち歩きの時分から柵のところまで」
   ―中世における老年描写　香田　芳樹
2. 自己と向きあうゲーテ―若返りと老いの物語　山本　賀代
3. 「ヴァイオリン協奏曲ニ短調」にみるローベルト・シューマンの晩年様式　舩木　篤也
4. スターティング・オーバー ― シュティフター『曽祖父の書類綴じ』最終稿における文化の共同性　磯崎　康太郎

シンポジウムⅡ（10:00～13:00）

B 会場（K210 教室）

中世文学における身体描写の逆説的レトリックを巡って
Zur paradoxen Rhethorik der Körperdarstellungen in der mittelalterlichen Literatur

司会：伊藤　亮平

1. ミンネザングにおける身体描写　伊藤　亮平
2. 我は生きながらにして死せる身なり(ich bin mit lebendem lîbe tôt.)
   ―『トリスタン』における生と死をめぐる逆説的レトリック―　渡邊　徳明
3. 『パルツィヴァール』における異教徒の身体　青木　三陽
4. 身体描写と笑い　嶋﨑　啓
5. ワーグナーの楽劇におけるグノーシス的快楽の身体性について
   ―『トリスタンとイゾルデ』と『パルジファル』を手がかりに
   山崎　明日香

シンポジウムⅢ（10:00～13:00）
C 会場（K110 教室）
Erinnerungsliteratur nach 1945. Medien, Kontroversen, Narrationsformen

Moderator: Markus Joch

1. W. G. Sebalds Archiv und Zeuge　Kentaro Kawashima
2. Grenzen der Wahrheitsliebe. Selbstdarstellungen nach 1945 (Andersch, Benn)　Markus Joch
3. Fehlgeleitete Rache. Erinnerung an Gewalt in Günter Grass' „Im Krebsgang" und Heinrich von Kleists „Penthesilea"　Yoshiko Hayami

ブース発表Ⅲ（10:00～11:30）

（ブース発表は途中での出入り自由です）

D 会場（K101 講義室）

多文化社会 EU の理解を重視した、高校における非英語外国語教育導入授業の試み ―東北大学での取り組みに関する中間報告―　藤田　恭子

閉会の挨拶（13:05～13:10）

A 会場（L201 講義室）

吉田光演

研究発表会期間中，上記のプログラムに加えて，書店・出版社等による書籍展示が行われます。（書籍展示会場：一階ラウンジ）